

問題点

## 停電・断水

対応策

- ・バッテリー、自家発電を準備(ハイブリッド車は、発電機並でレセコンが動く)
- 〈分包機〉
- ・薬包紙、ユニパックの準備
- ・薬さじなどのすりきり一杯は何gか
- 〈レセコン、電子薬歴〉
- ・データのバックアップ体制の構築
- ・レセコンデータのクラウド化
- ・手計算の訓練、代金は次回もらう
- ・お薬手帳の活用(東日本大震災ではこれにより薬がもらえた)→逆に無かったら、薬の確認に時間がかかる、普段から患者啓発
- ・患者の身元確認に免許証などを使う
- ・携帯にあらかじめ薬の写真をとっておき、薬情代わりにする
- 〈電子天秤〉
- ・上皿天秤の準備
- 〈冷蔵庫〉
- ・ドライアイス、保冷バック、保冷剤の準備
- 〈水〉
- ・ペットボトル水の準備→水剤調剤に利用
- ・ドライシロップの検討(調剤に水が不要で、小児にも適応、用量調節しやすい)
- ・井戸水の確認(飲めるか、使えるか等)
- ・ポリタンクの準備(配水車からの受け入れ容器)

問題点

## 通信麻痺

対応策

- ・スマートフォンのアプリ、災害ダイヤル、ツイッター、インターネットの利用
- ・薬剤師会発信のガイダンスを流す
- ・どこに行けば(または連絡すれば)正確な情報が得られるかを事前に打ち合わせておく(とりにあらず、薬剤師会に行くなど)
- ・ブロック連携の充実
- ・電池式ラジオの準備
- ・携帯電話を非常用として(別会社)を2台持つ
- ・遠方の知人、親戚に日頃から連絡をとる(遠方の方がつながりやすい)
- ・在宅、独居患者の緊急連絡先をあらかじめ聞いておく
- ・緊急連絡先を薬局内、薬局間、病院間で確認しておく
- ・避難所となる学校の連絡先を確認しておく

A

## 災害時における各薬局の対応

問題点

# 職能

対応策

- ・薬剤師としてすぐに働けるように、身分証明書を作成(カードなど)
- ・AEDの操作習得、応急手当の練習
- ・不衛生な状態になった時、感染防止などの患者への指導(知識を習得しておく)
- ・消毒薬の薄め方を把握
- ・日頃からOTC薬を把握(処方箋が出せない時、処方するまでもない時、役に立つ)
- ・トリアージ知識の習得(医療チームの一員として)
- ・いろいろな写真を見せる事ができるようにweb環境の整備を日頃からしておく
- ・チーム医療がすぐにできるように、日頃から連携を密にしておく

問題点

## 物流麻痺

対応策

**<卸>**

- ・卸売業者の供給体制の確認
- ・他県卸の流通網も視野にいれる
- ・MS、MRとの信頼関係構築→情報の収集、マンパワー不足を補える

**<医療機関>**

- ・他薬局とのつながりを平常時より作っておく(近隣で分譲しあう)
- ・薬局だけでなく病院とも平常時よりつながりを作っておく
- ・各薬局一個ずつは備蓄品を請け負う
- ・棚にゴムをはる、固定しておく、高めの台に薬剤を並べる
- ・冠水時、薬を守る為、水をすうと膨らむ土嚢を準備(バスタオル等もすき間につめるように用意)
- ・火災時の為に消火器の確認
- ・紙おむつ、タオル、飲料水、救急セット、マスク、ウエットティッシュの準備
- ・消毒液が役に立つので、ストックしておく
- ・禁忌が少ない代替薬のリスト作成
- ・処方の日数制限(2~3日にする)
- ・買いためをしない(必要な所に必要な薬が行かなくなる)→薬剤師会、卸サイドの介入も検討→基幹病院など一括おろす事等も検討しては？
- ・盗難防止の検討
- ・OTCを日頃からそろえておく

**<患者>**

- ・日頃から1週間ほど余分に処方してもらっておく
- ・予防接種しておく

A

## 災害時における各薬局の対応

問題点

# 人材不足

対応策

- ・自転車で移動(ノーパンク自転車)
- ・臨時調剤室を作ったり、基幹病院などに人材を集中させる(そこに薬もストックさせる)
- ・薬剤師人員の振り分け(行ける薬局、行ける病院に行ってもらう)→薬剤師会、ブロックで采配する
- ・他業種連携を日頃より進めておく

A

## 災害時における各薬局の対応

問題点

# その他

- ・ハザードマップの作成(水害を受けにくい薬局はどこか等)
- ・防災訓練の実施

対応策